



EnMSマネジメントレベル標準化フォーラム

日本発のEnMSマネジメントレベル評価方式の国際標準化をめざしております。ISO 50001取得事業者等をお招きして、提案規格原案のご説明とご意見をいただく機会としてフォーラムを開催致しました。



フォーラム開催時の風景

はじめに

JEITA（電子情報技術産業協会）が事務局を務めるエネルギーマネジメント標準化専門委員会では、2015年4月より「EnMSマネジメントレベル標準化検討会」を設置し、組織のエネルギーマネジメントの進捗度をスコアリング（数値化）する国際標準化提案の準備を行っております。日本規格協会受託の経済産業省・国際標準化事業の2年目を迎え、2019年2月12日（火）にJEITA主催で「第2回EnMSマネジメントレベル標準化フォーラム」を開催し、規格案に関する活動の中間報告がありました。

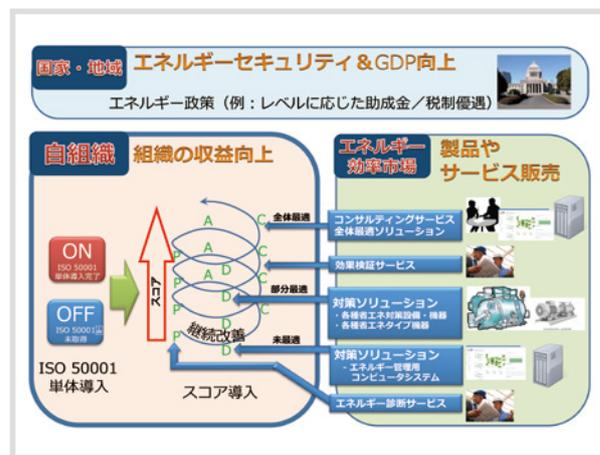
提案規格の概要

ISO 50001（エネルギーマネジメントシステム）によるエネルギー利用の効率化が世界的に進められている中、日本の省エネ技術（製品や管理手法）が海外に普及す

ることで、日本の貢献が期待されております。

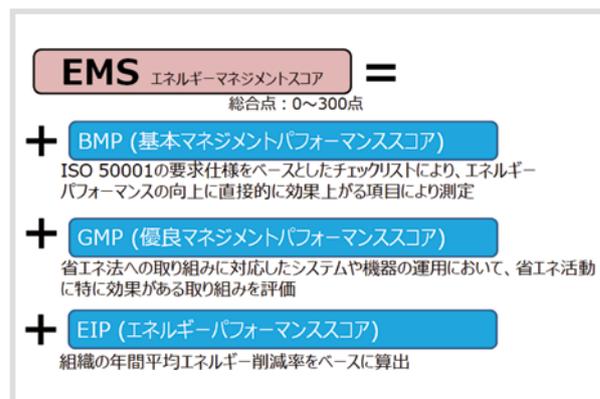
この国際規格の目的は、エネルギーマネジメントの「継続的なレベル向上の文化」が世界に根付くことにより、エネルギー効率商材の市場が拡大するためのフレームワーク（図1）を確立することにあります。

【図1】



この規格は、3つのスコアの合計値（図2）であるエネルギーマネジメントをスコアで表示する方法を採用しております。

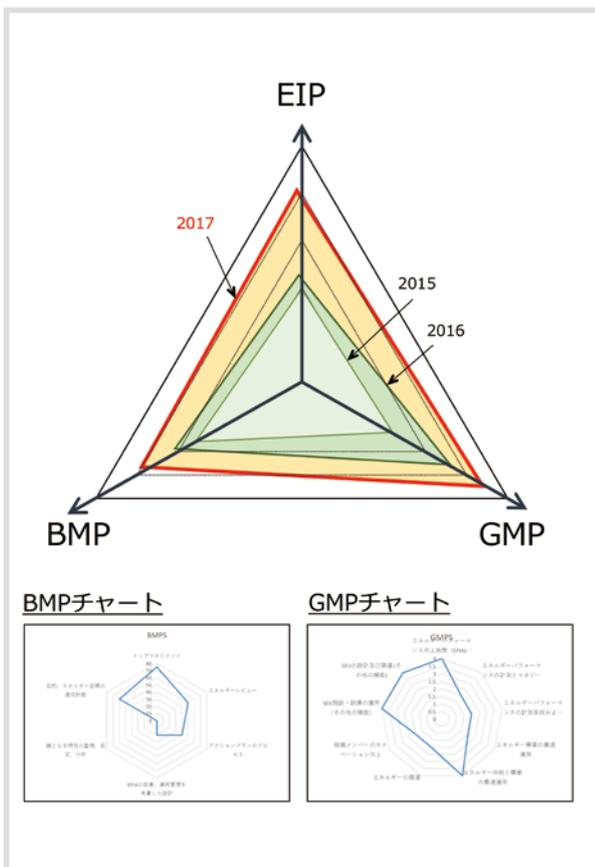
【図2】



1つ目はISO 50001の要求仕様をベースとしたチェックリストにより、エネルギーパフォーマンスの向上に直接的に効果上がる項目により測定する「基本マネジメントパフォーマンススコアBMP」、2つ目はシステ

ムや機器の運用において、省エネ活動に特に効果がある取り組みを評価する「優良マネジメントパフォーマンススコアGMP」、3つ目は組織の年間平均エネルギー削減率をベースに算出する「エネルギーパフォーマンススコアEIP」を合計300点で評価します。各合計値をレーダーチャート(図3)で提示することで視覚的にチェックが可能となります。

【図3】



原案策定および改訂における主な議論

① ISO 50001 との関係

ISO 50001の要求仕様のうち、エネルギーパフォーマンス向上に効果が大きい項目のみ選択し、BMPとして評価しています。

② 省エネ法との関係

判断基準の基準部分(6分野の管理・基準、計測・記録、保守・点検等)の目標部分と中長期計画指針は選択的にGMPの評価項目に利用します。

③ 先進商材との関係

組織の「著しいエネルギーの使用(ISO 50001の注力管理対象)」に該当する設備等の、エネルギーパフォーマンスの向上に効果的な「エネルギーパフォーマンスの計測・管理方法」、「運用基準の設定と管理方法」、「設計および調達の管理方法」の「事例」として、先進商材の特長機能を示します。

事業計画と国際提案のスケジュール案

今後の国際規格案の作業スケジュールは図4の通りとなっております。NWIP(New Work Item Proposal: 新規国際規格作成を提案する企画書のこと)案を4月までに国内でまとめ、6月に開催されるPWI(Preliminary Work Item: 予備業務項目)会議でNWIPの内容について検討後、ISO/TC301(エネルギーマネジメントおよび省エネルギーに関する技術委員会)総会でNWIPの承認を得ることができれば、8月にISO/TC301へNWIPを正式に提出し、2020年2月開催の第1回WGから日本発のEnMSマネジメントレベルの国際規格発行に向けた議論がスタートすることになります。

【図4】

	H29年度 7月 9月	H30年度 6月 10月 12月 2月 3月	H31年度 4月 6月 8月 11月 12月 2月	H32年度 6月
イベント	第1次原案 第1回フォーラム NIP原案(CG説明用) NIP原案国内審議	NIP原案CG事前説明 日本企業実態調査 実証テスト 第2回フォーラム NIP原案(国内最終原案)	NIP原案国内審議 PWI会議と総会承認 正式提出 ASEAN諸国への啓蒙 第3回フォーラム	第1回国際WG会議 第2回国際WG会議
標準化 検討会	検討会 (全5回)	検討会 (全5回)	検討会 (全5回)	